

文部科学省委託調査研究 URAシンポジウム

大学等の研究力・経営力の向上に向けて ～大学等が求めるURAシステムの確立・強化にどう取り組むか～

登壇者・コメンテーターのプロフィール

2017年3月25日

 株式会社三菱総合研究所

「第1部 講演」登壇者のプロフィール（1/3）



藤巻 朗（ふじまき あきら）

名古屋大学 副理事（研究力強化担当） 学術研究・産学官連携推進本部 副本部長 名古屋大学大学院工学研究科電子情報システム専攻 教授

■1987年カリフォルニア大学客員研究員、同年、東北大学大学院工学研究科電子工学専攻博士後期課程修了、博士（工学）。名古屋大学工学部助手、講師、助教授を経て、2004年～名古屋大学大学院工学研究科教授（現職）。2004年1月～同大学 学術研究・産学官連携推進本部 副部長（兼務）。2015年4月～同大学副理事（兼務）。専門分野は超電動エレクトロニクス。



関 二郎（せき じろう）

京都大学 学術研究支援室 副室長(シニアリサーチ・アドミニストレーター)

■元アステラス製薬・安全性研究所所長。平成26年5月から京都大学・学術研究支援室・シニアURA、平成28年4月から同副室長、兼生命・医薬系グループリーダー。企業での研究及びマネジメント経験を活かし、主に生命・医薬系研究に関する外部資金獲得支援や大型プロジェクトの研究推進支援、学内ファンドの設計・運営、産学官連携推進支援等を行うとともに、URA組織体制や人事評価制度の整備等、室長によるマネジメントを補佐している。

「第1部 講演」登壇者のプロフィール（2/3）



仙波 秀志（せんば ひでし）

東京農工大学 学長特任補佐

■愛媛県新居浜市生。平成6年、東京大学大学院理学系研究科地球物理学専攻修了後、総理府科学技術庁（当時）入庁、再編後は文部科学省で、宇宙利用や、地震研究、研究交流、技術移転、広報、人材育成、融合領域創成、国際交流、核融合などの施策実施に携わる。またその間、通商産業省（当時）、原子力安全委員会事務局（当時）、理化学研究所、欧州連合日本政府代表部などでも経験を積み、平成28年6月より現職。



中西 義信（なかにし よしのぶ）

金沢大学 学長補佐（大学改革・研究支援・国際担当）医薬保健研究域薬学系教授

■1953年大分県で出生、1975年東京大学薬学部卒業、1981年東京大学大学院博士課程修了（薬学博士）、1981～1984年米国Yale大学留学、1984～1986年東京大学助手薬学部、1986～1998年金沢大学助教授薬学部、1998年～現在金沢大学教授薬学系、2012年～現在金沢大学学長補佐、2013～2015年公益社団法人日本生化学会会長、研究対象は「自然免疫における細胞死と貪食反応の仕組みと意義」

「第1部 講演」登壇者のプロフィール（3/3）



西山 崇志（にしやま たかし）

名古屋大学 教授・総長補佐

■2015年8月より現職。専門：科学技術イノベーション政策。大学の新たな研究力強化、本格的産学官連携の実施に係る施策の企画・立案、実施を担う。2000年科学技術庁入庁、中央省庁再編で2001年に文部科学省へ。これまで21世紀COEプログラムなど大学院振興施策の企画・立案、科学技術人材の育成、女性研究者の活躍、宇宙・原子力など大型研究開発プロジェクトの推進等に関する取り組みに従事。京都大学卒。



林 輝幸（はやし てるゆき）

東京大学 シニア・リサーチ・アドミニストレーター

■産総研で長年、化学分野の研究を続けた後、2008年より、東京大学グローバルCOE「理工連携による化学イノベーション」プログラムマネージャー（特任教授）、2012年より理学系研究科のURAを務めている。東大のURAスキル標準の策定に当初からかわり、基本スタイルの確立に寄与した。教員の研究時間減少や、大学の国際競争力の伸び悩みに対処するという、日本版URAの原点に立ちつつ、「研究者の気持ちができる」URAとして活動している。

「第2部 公開ワークショップ」コメントーターのプロフィール（1/3）

グループ1、グループ2（経営管理・支援型URAの課題・将来像を議論）



山本 進一（やまもと しんいち）
岡山大学理事・副学長

■1984年京都大学大学院農学研究科博士後期課程林学専攻 修了、博士（農学）。岡山大学農学部助教授を経て、1996年名古屋大学農学部教授。1999年同大学院生命農学研究科教授。2002年同大学院生命農学研究科長。2004年名古屋大学理事（研究・国際交流担当）・副総長。2009年同大学総長顧問。2011年から岡山大学理事・副学長（研究担当）（現職）。この間、大学評価・学位授与機構客員教授として大学評価システム開発に従事する。専門分野は森林科学。名古屋大学名誉教授。



川端 和重（かわばた かずしげ）
北海道大学 理事・副学長

■昭和60年 北海道大学理学研究科物理学博士課程修了（理学博士）、昭和60年 出光興産株式会社中央研究所入社。平成 6年 北海道大学理学研究科 助教授、平成14年 北海道大学理学研究科 生物科学専攻 教授、平成20年 大学院先端生命科学研究院 研究院長、平成23年より現職。大学運営における研究戦略、産学・地域連携、人材育成を担当。

「第2部 公開ワークショップ」コメントーターのプロフィール (2/3)

グループ3 (医療系特化型URAの課題・将来像を議論)



森田 育男 (もりた いくお)
東京医科歯科大学理事・副学長

- 1975年千葉大学薬学修士課程修了、1980年東京大学で薬学博士取得。1985年東京都老人総合研究所研究員を経て東京医科歯科大学助教授。2002年東京医科歯科大学教授に就任、2009年より東京医科歯科大学理事・副学長。その間、PMDA専門委員、NEDO評価分科会委員長、JST若手自立作業部会委員を務める。炎症、再生医療などの基礎研究とともに、産学連携、研究不正などの研究に従事。



飯田 香緒里 (いいた かおり)
medU-net 事務局長、東京医科歯科大学教授

- 中央大学法学部卒業。専門分野は、知的財産権法及び産学連携活動に関するリスクマネジメントの研究。2005年国立大学法人東京医科歯科大学入職後、2011年産学連携研究センター長、2014年より現職。産学連携活動推進並びに、利益相反マネジメントを含む産学連携コンプライアンス教育及び研究に従事している。現在、経済産業省産業構造審議会知的財産分科会委員、文部科学省科学技術・学術審議会委員、日本内科学会利益相反委員、産学連携学会副会長に従事している。

「第2部 公開ワークショップ」コメントーターのプロフィール (3/3)

グループ4 (特定業務専門型URAの課題・将来像を議論)



野口 義文 (のぐち よしふみ)

立命館大学研究部事務部長 立命館大学産学官連携戦略本部副本部長

- 1986年立命館大学法学部卒業。2005年立命館大学BKCRIEゾンオフィス課長、2008年立命館大学研究部次長、2009年立命館大学研究部事務部長、2013年立命館大学産学官連携戦略本部副本部長（兼務）、現在に至る。
2011年度JSTイノベーションコーディネータ賞受賞。文部科学省科学技術・学術審議会専門委員、JSTイノベーション人材育成委員会委員、理化学研究所事務アドバイザー・カウンスル委員等を務め、更に2016年からは大阪府下の茨木市産業振興アクションプラン推進委員会委員長として地方創生業務にも従事。現在立命館大学研究部職員約200名の責任者として、研究高度化を牽引。



池田 雅夫(いけだ まさお)

大阪大学経営企画オフィス・副オフィス長

- 神戸大学助手・講師・助教授・教授、大阪大学教授を経て、2010年4月より大阪大学大型教育研究プロジェクト支援室でURA業務に従事。2013年8月～2015年8月副学長（URA担当）。URAの育成・定着のための業務設計やキャリアパス設計を行う。2016年4月より経営企画オフィス副オフィス長として、経営に関する業務にも従事。現在、リサーチ・アドミニストレーター協議会副会長。元の専門は制御工学。計測自動制御学会、IEEE、日本機械学会、IFACのフェロー、元計測自動制御学会会長。